

『分子間力と表面力(第3版)』正誤表

更新履歴：2019年5月29日，作成・公開

場所	誤	正
p.294, 図 15.2 キャプション	√記号の位置のずれ	<p>図 15.2 12 個の円柱状分子または小さい粒子が二つの（構造のない）平面間にある。膜厚 D を減らし、3 層から 2 層そして 1 層の最密充てん層へ変わるときに、円柱の構造がとり得る再配列。経路 1：分子層の対称的崩壊。最終的に三角形ユニットが回転する。経路 2：固定された三角形ユニットが互いにすべる。経路 1 と経路 2 は、おのおのの距離 D において、非常に異なる分子配列（膜構造）と密度を示す。この結果、異なる溶媒和力関数が生じる（練習問題 15.1 と練習問題 15.2 参照）。自拔きの分子は経路 1 にも経路 2 にも参加しない。$n=3, 2$ および 1 の層に対する膜厚 D は、それぞれ、$(1+\sqrt{3})\sigma=2.73\sigma$、$(1+\sqrt{3}/2)\sigma=1.87\sigma$ および 1.00σ になることに注意。すなわち、$n=1$ 以外は、膜厚は分子直径 σ の単純な倍数ではない。他の可能性については本文中で議論し、図 15.3 に示す。</p>